

様式 3-1

【新規】

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）

— 研究課題 1 高等学校 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

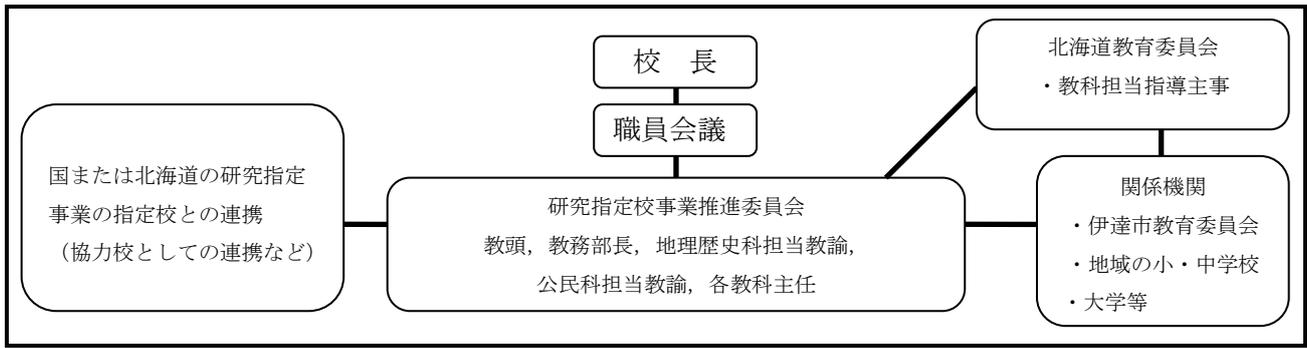
1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどう だてみどりがおか こうとうがっこう 北海道 伊達緑丘 高等学校				ふりがな 校長氏名	きちせき けんさく 吉瀬 献策
所在地	〒059-0273 北海道伊達市南稀府町 180-4 電話 0142-24-3021 FAX0142-24-3021 e-mail datemidorigaoka@hokkaido-c.ed.jp					
設置する 課程 (H28.4.1 現在)	全日制課程				(H28.4.1 現在) 教員数 32名	
生徒数 (H28.4.1 現在)				[調査研究にかかわる教科等の教員数]		
学科名	1年	2年	3年	4年	計	
普通科	139	161	149		449	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	地理歴史	教科課題番号等	
学校における研究主題	地理歴史科（世界史・日本史・地理）の科目相互の連携を図った授業実践の研究 【研究仮説】地理歴史科（世界史・日本史・地理）における科目相互の連携を図り、社会的 事象の意味や意義、概念等を他科目と関連付けて総合的に捉えさせることで、地理歴史に ついての学習意欲や学力をより向上させることができるのではないかと。		
研究主題設定の理由	本校では、生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っており、学習活動と部活動とを両立させ た健全な心身の発達を促す教育活動の充実を図っている。しかし、例年大学進学を目指す 生徒が多いものの、主体的に学習する意欲や態度、思考力・判断力・表現力等が十分である とはいえず、地理歴史科においても同様の課題がある。また、各科目で習得した知識・概念 や技能を活用したり、科目相互の関連性を踏まえて考察したりする力も不十分である。 こうしたことから、地理歴史科においては、世界史・日本史・地理の科目間連携を図り、 歴史的な見方や考え方や、地理的な見方や考え方を育成するとともに、問いを追究する学習活 動を通して、学習意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力等を育成することをねらいとし て、研究主題を設定した。		
研究の内容	1 世界史・日本史・地理の各単元において、他科目との関連を踏まえた学習を継続的に行 い、歴史的な見方や考え方や、地理的な見方や考え方を育成する授業実践の研究に取り組む。 2 他科目との関連を踏まえ、課題解決プロセスにもとづく主体的・協働的な学習や、言語 活動の充実を図り、生徒の学習意欲を高めさせるとともに、思考力・判断力・表現力等を 育成するための授業実践の研究に取り組む。 3 他科目との関連を踏まえ、本質的な「大きな問い」とその理解に至る「小さな問い」を 設定し、生徒の思考を促し、考察が深まるよう工夫・改善を図る。 4 科目相互の関連を重視した評価問題の研究・開発に取り組むとともに、生徒の変容につ いて検証する。 5 他科目との合同授業や、学習したことを科目相互で学び合ったり、教え合ったりする授 業実践に取り組むとともに、学習の成果を地域に還元するため、生徒が地域の中学校等を 訪問し、生徒が講師となった地理・歴史学習等を実施する。		

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	取組の計画	期待される成果
一年次	前期	<p>4月・单元ごとに学習のねらいを「問い」として明示したシラバスに基づく授業ガイダンスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界史A「自然環境と歴史」 地図や写真を読み取る活動を通した人類が自然環境に働きかけた事象等の歴史的考察 校内研修，公開授業及び研究協議会の日程調整 <p>6月・授業アンケートの実施・分析</p> <p>7月・地域の小中学校への授業公開</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者（学校評議員等）への授業公開 北海道高等学校学習状況等調査結果の分析 校内研修「授業の工夫・改善」の実施 <p>8月・日本史A「近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢」 近代産業の発展の舞台となった諸地域についての地理的要因の考察。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理A「世界の生活・文化の多様性」 諸地域の生活・文化についての歴史的背景を踏まえた考察 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスにおいて学習のねらいを「問い」として明示することにより，生徒の思考を促す学習指導への転換を図ることができる。 世界史Aの導入において歴史と自然環境との関係を理解することにより，歴史の学習における地理的条件の重要性を理解できる。 授業公開や授業アンケートにより，生徒の実態把握や効果的な授業改善や学習評価の方法の情報を共有することができる。 地理的要因を踏まえた歴史の学習や歴史的背景を踏まえた地理学習を行うことにより，地理歴史科としての学習深めることができる。
	後期	<p>10月・北黄金貝塚を活用した体験学習「縄文学習」</p> <p>11月・「生徒の主体的・協働的な学び合い」を重視した地歴公民科研究授業の実施</p> <p>12月・校内研修「学習評価の在り方」の実施</p> <p>1月・授業実践成果（研究集録）のまとめ（中間） ・授業アンケートの実施・分析</p> <p>2月・次年度の指導計画の作成</p> <p>3月・研究成果の公開（学校ウェブページ等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査及び体験的な学習や主体的・協働的な学び合いに取り組むことにより，学習意欲やプレゼンテーション能力の向上を図ることができる。 授業アンケートの計画的な実施及び分析により，生徒の実態を把握し，教員の共通理解のもと，効果的な学習指導につなげることができる。
二年次	前期	<p>4月・シラバスに基づく授業ガイダンスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関（伊達市教育委員会，大学等）との連絡調整 世界史A「自然環境と歴史」 地図や写真を読み取る活動を通した人類が自然環境に働きかけた事象などの歴史的考察（一年次の取組を踏まえ工夫改善） <p>6月・北海道高等学校学習状況等調査の結果に基づき前年と比較・分析した生徒の変容の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関と連携することにより，地域に根ざした学校づくりを一層充実することができる。 前年度との生徒の変容を比較・分析することにより，教員の授業改善につなげることができる。 外部講師を招いて校内研修を実施することにより，先進的な実践を理解し，研修内容を踏まえて授業の工夫改善を図ることができる。

	<p>7月・授業アンケートの実施・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による校内研修「主体的・協働的な学び合い」の実施 <p>8月・日本史A「近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢」</p> <p>近代産業の発展の舞台となった諸地域についての地理的要因の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理A「世界の生活・文化の多様性」 <p>諸地域の生活・文化についての歴史的背景を踏まえた考察</p> <p>(一年次の取組を踏まえた工夫改善)</p>	
後期	<p>10月・伊達市開拓記念館を活用した歴史学習</p> <p>11月・「生徒の主体的・協働的な学び合い」を重視した地歴公民科研究授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が講師となった地域の中学校における歴史学習の実施 <p>1月・授業実践成果（研究集録）のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの実施・分析 <p>2月・次年度の指導計画の作成</p> <p>3月・研究成果の公開（学校ウェブページ等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活用することにより、郷土に愛着を持たせるとともに歴史学習の意義について理解させることができる。 生徒が講師を務め中学生に歴史学習を実施することにより、歴史的な見方や考え方の定着を図るとともに、言語活動を一層充実させることができる。 アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業の取組内容を公開することにより、知識・技能の定着に偏重した授業から学力の三要素をバランスよく身に付けさせる授業への転換を図ることができる。

5 研究のまとめの見通し

【期待される成果】

- 科目相互の連携により、地理歴史についての学習意欲や学力（①基本的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度）を向上させることができる。
- 地理歴史科における体験活動や主体的・協働的な学び合いに取り組むことにより、知識を活用して自ら問題を発見し、他者と協働して解決していくための資質やプレゼンテーション能力を育むことができる。
- 知識・技能の定着に偏重した授業から学力の三要素をバランスよく身に付けさせる授業への転換を図るとともに、取組内容を研修会等で積極的に発信することで他教科・科目はもとより、他校にも普及することができる。
- 地域の教育資源を活用することにより、郷土に愛着を持たせるとともに歴史学習の意義について理解させることができる。

【研究成果の検証方法】

- 北海道高等学校学習状況等調査による学習意欲や学習時間などについての結果の検証
- 年2回実施する授業アンケートに基づく検証
- 公開授業及び研究協議会の実施による外部評価に基づく検証
- 評価問題の結果の分析による検証